

1 まちづくり

(1) 食育の推進

毎日の生活の中で感じたり感じなかったり、また、何かがあった時に初めてそのありがたさに感謝するのが「健康」。人口減少対策、健全財政を維持するうえでも欠かせない健康増進について、食育の視点から以下伺う。

- ① 啓発から実践への具体的取り組みに向けた活動の分析と評価について
- ② 空腹感と適度な運動の取り組みについて
- ③ 地域や事業所、店舗等との積極的な連携・取り組みについて

(2) I o T とヘルスケア

I C T 技術と I o T の進展は、治療分野だけでなく医療・介護等へのヘルスケアにも広がり、E H R ・ P H R の管理や活用にも寄与する。以下伺う。

- ① ウェアラブル端末やスマート衣料の活用について
- ② 医療・介護等医療連携における E H R の進捗と現状について
- ③ クラウドを活用した P H R の時系列的管理と活用について
- ④ ポケットカルテ及び地域共通診察券の導入の検討・考えについて

(3) 3 D プリンターの活用について

3 D プリンターが登場して相当の年月が過ぎたが、海外ではマイホーム等建築にも多様な活用がされている。マイホームだけでなく、災害時の仮設住宅や戸建ての市営住宅建設にも活用できる。あらゆる分野で時代が大きく変わっていく今こそ研究検討の余地ありと思うがいかがか。

2 ひとつづくり

(1) 新学習指導要領への対応

新学習指導要領が平成29年3月に告示された。そこで以下伺う。

① プログラミング教育

小学校プログラミング教育は、未来の学びコンソーシアムを総務省・経済産業省・文部科学省が民間IT企業等とともに立上げるほど熱心な取り組みとなっている。

平成32年度から次世代の教育情報化推進事業として小学校で全面実施、中学校は33年度に全面実施、高校は34年度から学年進行となる。

ア 現在までの準備状況、運用までの課題及び運用後に想定される課題は。

イ 教員の負担が相当量で増えていくと思われるが、負担の解消とメンタルヘルス、人材の確保はどのように考え、準備が進められているのか。

ウ 地域や民間企業との連携は不可欠である。コーディングではない教育的視点の理解を図ることは重要なところ。どのように考えているか。

エ 論理的思考と多様な価値観・思考についてどのように捉えているか。

② 海洋教育

次期指導要領では社会科に海洋に関する事項が盛り込まれている。「海洋の広がりや島々の位置に着目して多面的に考察する」とある。良く分からないが国際的な状況が垣間見える。とは言え、磐田市も海洋に面しており、海に親しみを持つことは漁業や防災・安全意識においても大きな意味がある。取り組み方法等現状について伺う。

③ カリキュラムマネジメント

児童生徒の言語能力や課題発見解決能力等の基礎的能力を高めるために教科横断的な学習が重要である。小中一貫教育では、今後は高校との連携も重要となるが、プログラミング教育や英語教育の充実を図

るために、教育課程の充実等学習の最大効果を上げていくための考えを伺う。

④ 英会話力について

英会話能力の到達度を知る手立てに英語検定がある。磐田市の中学3年次での検定受験者数や受験比率、級別人数等の現状はどうか。また、これまでの成果についての評価は。

(2) 多様な人材の活用

多様性が進み、これまで以上の様々な人材の活用が迫られている。以下伺う。

① 若いアイデアと民間のノウハウの活用、多世代や多文化との連携は。

3 行政全般

(1) 河川美化について

① 毎年6月第1日曜日は環境美化の日。福田地区では今年も3日の日曜日に水際のごみ回収作業が行われた。ところが、雑草や低木等が繁茂し、水際まで下りられず、なにも出来ない箇所もあった。参加者が年々減少している傾向の中、河川美化意識の啓発と高揚、また作業効率を上げるためにも水際まで下りられる道をいくつか準備しておくことは必要なことである。当日、参加された地域の皆さんからの強い要望でもある。次年度の実施に向けた取り組みとして袋井土木事務所等の関係機関との協議・検討を要望する。いかがか。

② 県のリバーフレンドシップ制度の促進を図るための県との連携は。

(2) マイナンバーについて

① マイナンバーカードの発行数等現状と普及への課題は。

② マイキープラットフォーム事業の導入への考えは。

(3) 除草作業（直営班）の地域への委託について考えを伺う。